

小地域福祉活動連絡会グループワーク詳細意見

10月25日（月）

○1 グループ

- ・コロナ前は年4回ブロックに分けて見守り活動をしてきた。
- ・コロナ禍では従来の活動ができない日が続いたため、ブロックの班長が集まり、今後どうしていくか話し合いを行った。
 - 感染者も落ち着いてきたため、10月中に天気を見ながらポスティングによる安否確認を兼ねた見守り活動を再開する予定。
- ・このような活動であれば、年3回くらいは行えるのでは、と話をしている。
- ・緊急事態宣言中は一度だけサロンを2部制にして開催したが、以降は休みが続いている状況。
- ・今年の2月は、民生委員と協力しながら一人暮らしの高齢者宅を30数軒、お土産を手に訪問した。
 - 民生委員の協力があつたおかげで、訪問に抵抗を示される人はなく、むしろ喜んでもらった。
- ・感染者が落ち着いてきたため、当初は11月から再開予定でいた。
 - しかし、役員会で話し合いをしたところ、再開に不安の声も聞かれたため、来年から再開する方向に変更した。
- ・再開する際には、従来の対面式ではなく、講義のように同じ方向を向き、対話時間を少なくし、包括や社協の協力を得て、出前講座を活用した勉強会や講座を中心に開催しようと考えている。また、お菓子やお茶も持ち帰りとしたい。
- ・コロナ前は、10年間休むことなく毎月第一月曜日にサロンを開催していた。
- ・今年6月、7月は見守りを兼ねてワクチン接種の手続きを行う支援を行った。
- ・夏には一人暮らしの高齢者宅86軒に「よるこんぶ（昆布）」を、活動者5人で手分けして配布した。縁起物でもあり、とても喜ばれた。
- ・サロンは11月から再開する予定。最初は「お楽しみ会」とし、手遊びのものを色々と並べて好きなもので遊んでもらおうと思っている。
- ・サロンの日の午後は、老人会と協力しながら町会会館を開放し、好きなことができる時間とする予定。
- ・サロンについて、コロナ中は中止が続いていたが、数回落語のDVDを観る形で開催した。
- ・サロンは10月より配布物は手袋をして配布する等工夫して再開している。

・折り紙も再開している。

※高齢者福祉課の認知症カフェ、小地域福祉活動としてのサロンを同じ場所で行っており、参加者は同じ方ということで、自身の線引きがあいまいになっているところが困りごとと話される。

<コロナ禍で気づいたこと>

サロンを楽しみにしている人、心待ちにしている人が多くいるということを実感した。

→待っている人たちのために、どのような形であれば再開できるのか考えるようになった。

・役員会では話し合いを通して、何が必要か確認し合い準備を進めることができた。

・コロナ禍でも役員が担当している班内での困りごと（マンション上からゴミを捨てる等の迷惑行為等）があれば、民生委員に連絡が入り、そこから包括へ繋ぐなどの連携が取れていた。

それが活動者間での安心感にもつながっていたと思う。

→組織的な取り組みを継続的に行ってきたからこそ、コロナ禍でもそれぞれが地域に目を向け、気になる事は繋ぐという体制が取れていた。

<大切なこと>

（共通意見）

顔を合わせた際に挨拶をすることで気持ちがよくなる。

また、日頃の変化の気づきにもなるため、マスク越しでも挨拶をする地域にしたい。

○2グループ

・10月15日から集会所で体操再開。

・外に椅子を出し、2m離れて体操。9人参加。

・自分たちのマンションの集会所を使っている

・見守りは、マンション内の『見守り担当』が月1回（事前アンケート。希望者のみ）行う。

・マンション内では、『老人クラブ』も別の活動を行う。

・体操・おしゃべりを主な内容としている。

・9月より体操（月2回）再開。2グループに分かれて行う。

・10月も月2回体操を行う。参加者は、15～16人。

・室内ではおしゃべりを少なく、手指の消毒、換気など感染予防対策を行っている。

・今後は、座る体操も予定。

- ・現在、サロンはしていない。コロナ感染を恐れ、サロンを再開してほしいとの要望もない。
- ・電話で利用者の現状を確認している。
- ・道などで会った際には、声掛けを積極的に行っている。
- ・ワクチン接種の際には、「ワクチンを接種しましたか？予約できなければ、手伝います」との電話を入れた。
- ・『見守り便り』100部ポスティング。

【出来たこと】

- ・感染対策をして体操
- ・声掛け・見守り
- ・見守りだよりの配布

⇒見ている、見守っていることを伝え続けることが出来た。

【今後の課題】

- ・住民同士の交流を増やす。
- ・身体機能の低下が気になるので、外にでるよう促す。

例えば…

- ・フレイル予防（体操・脳トレ）
- ・気分転換になるようなもの（折り紙、工作など）
- ・声を出すことが困難な方もいるので、唾液を出す体操